

古民家の調査

高砂では、文化財建造物として、十輪寺や曾根天満宮・旧入江家住宅などが知られていますが、それ以外にも数多くの町家や民家、近代化遺産などの歴史的建造物が残っています。

文化財総合的把握モデル事業では、市内に残る歴史的建造物がどの程度残っているか、その魅力・価値を調査しています。また歴史的建造物を文化遺産として保存・活用したまちづくりの整備方針に反映させることを目的としています。

調査は市内を8地区に区分して、古民家調査から始まり、現在は社寺建造物の調査に着手しています。

古民家調査での各地区の残存件数は、表の通りです。

高砂地区	214件
荒井地区	57件
伊保地区	86件
米田地区	46件
中筋地区	36件
曾根地区	75件
阿弥陀地区	58件
北浜地区	49件

調査が進めば件数は変わりますが、市内全域に古民家が残存することがわかりました。また地区ごとの特色もわかってきました。

高砂地区は、江戸時代の町割りが基本となっていますが、大正末期から昭和十年代までの町屋が中心とな

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先

教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448-8255

って、江戸時代と確認できたのは数棟でした。近代化で町が大きく変貌したことがわかりました。

北浜地区では茅葺民家が15件とっとも多く残っていて、かつての里山風景を想像することができます。

阿弥陀地区や中筋地区・伊

保地区・荒井地区などでも数棟ずつ確認されており、民家の歴史を知る貴重な建造物です。

今市地区は、規模の大きな蔵や民家が歴史的な景観を形成しています。

またほとんどの古民家の基礎で竜山石が使用されていることが確認できました。

2月14日に曾根地区で実施されたまち歩きに地元の方や高砂歴史ガイドクラブの皆さんと一緒に参加しました。地元の方でなければわからない町の歴史やお宝を教えてくださいました。

今後多くの方のお話を聞き、調査を進めていきたいと考えています。

(ひょうごへリテージ機構
H2O東播 尾瀬耕司)

